

- 1 県内3病院に医療通訳を配置しました！
- 2 外国人患者受入れ体制のモデル構築にかかる調査、消費者被害防止研修会、介護通訳者育成研修
- 3 四日市市日本語ボランティア研修、韓国高校生交流事業、親と子の多言語おはなし会
- 4 MIEF からのお知らせ、ひろがれ MIEF の輪

県内3病院に医療通訳を配置しました！

【医療通訳配置の促進】

三重県より受託している医療通訳育成事業の一環として、昨年8月から今年1月にかけて、外国人住民数が県内4番目に多い伊賀市内の岡波総合病院および上野総合市民病院にポルトガル語、スペイン語および中国語を、また近年医療通訳の依頼が増加している児童精神科と児童整形外科がある三重県立子ども心身発達医療センターにポルトガル語、スペイン語の医療通訳を配置しました。

本事業は、医療通訳のニーズがあると思われる医療機関等に、試行的に医療通訳を配置し、医療通訳の必要性および有用性を検証することを目的としていますが、各病院での配置日数が週2回の1日4時間と短時間であったにもかかわらず、平均して1日3件の通訳依頼があり、ニーズのあることが確認できました。

また、医療通訳を利用した医師、看護師および事務職員に対し、アンケート調査を行ったところ「外国人患者の対応がスムーズに出来たので助かった」、「文化的背景を考慮する必要があるため通訳者がいるとありがたい」、「外国人労働者の増加に伴い、今後更に通訳者に頼ることが多くなる」、「通訳をしていただき、大変スムーズな予診を行うことができました。是非来年度も来ていただくと嬉しい」など医療通訳が必要とされていることが分かりました。



医療通訳の試行配置後の継続配置にあたっては、費用や人材確保など、いくつか課題がありますが、外国人患者や医療従事者の双方からニーズが高いことから今後の継続配置が期待されます。

☆医療通訳が配置されている医療機関リスト☆

MIEF では、医療通訳者（兼務含む）を配置している県内医療機関等の情報をホームページに掲載しています。

ぜひ配置状況をご確認いただき、お知合いの外国人住民に情報をお知らせ下さい。

！詳しくはコチラ

<http://www.mief.or.jp/jp/iryouhaichi.html>
(日本語)

<http://www.mief.or.jp/po/iryoumodel.html>
(ポルトガル語)

<http://www.mief.or.jp/sp/iryoumodel.html>
(スペイン語)

※「三重県医療通訳配置」で検索してください。

【医療通訳者育成研修】

医療通訳人材の育成と確保を目的とした研修会を昨年6月から10月にかけて4回実施しました。

今年度の新たな取り組みとして、医療通訳の言語能力を確認するための受講試験を設け、試験に合格した一定の言語能力レベルを持つ方々に研修会を受講していただきました。試験を行ったことにより、これまでの研修会と比べ、出席率がより高くなり、参加者の学習意欲向上にもつながりました。

研修内容としては、前半にはヒアリング力強化研修や通訳技術の向上に関する研修を行い、後半には日本の医療制度、認知症、児童てんかん、そけいヘルニア等をテーマにした医療基礎知識講座とその講座内容を基にしたロールプレイを行いました。



外国人患者受入れ体制のモデル構築にかかる調査

厚生労働省では、在留外国人・訪日外国人旅行者の増加が見込まれる中、外国人患者が安全・安心に日本の医療サービスを受けられるよう、外国人患者受入れ体制の拡充を図るため、今年度「地域における外国人患者受入れ体制のモデル構築事業」を創設しました。本事業を実施する5県のうちの1県に三重県が選定されました。

三重県における外国人患者受入れ体制を検討する本事業のうち、県内の病院および診療所対象のアンケート調査、通訳を配置している医療機関に来院した外国人患者対象のヒアリング調査、外国人患者受入れ実績のある医療機関対象のヒアリング調査を MIEF が受託しています。

今回の事業により、外国人患者の受入れの現状、課題およびニーズが明らかになり、医療従事者も外国人患者も負担なく医療サービスを受ける体制が充実されることが望めます。

消費者被害防止研修会

MIEF では三重県からの委託により、外国人住民等を対象に、日常生活で起こりうる消費活動に関するトラブルについて注意喚起をするための研修会を開催しています。

第1回は、鈴鹿市にあるブラジル人学校 EAS Suzuka で生徒の保護者を対象に実施しました。第2回は、三重県立みえ夢学園高校で生徒や先生方を対象に実施しました。

研修会では、講師を三重県消費生活センターの方が務め、不当請求や敷金返還トラブル、キャッチセールスやマルチ商法など身近にある消費者トラブルについて説明いただきました。また、消費者トラブル防止のための多言語DVDを上映し、実際の事例を知ると共にクーリング・オフ制度についても学びました。

消費者トラブルは、日常生活に潜む身近な問題です。MIEF では、できるだけ多くの外国人住民やその周りの方に消費者トラブルについて知ってもらい被害を防止できるよう、努めていきたいと思えます。



▲三重県作成の多言語DVD「契約トラブルから自分の身を守りましょう！」

介護通訳者育成研修

三重県内の外国人住民は定住化、永住化の傾向にあり、65歳以上の方の人数も10年前と比較すると、県内住民数の最も多いブラジル国籍については158人から379人(2.39倍/2006年末および2016年末の法務省「在留外国人統計」)、2番目に多い中国籍の方々については、42人から73人(1.73倍)に増加しています。

外国人住民の中には、日本の介護制度や介護サービスについて十分な情報と知識を持っていない人も多くいます。日本語が流暢な方であっても、高齢になると母語のみの会話になる傾向にあると言われていいます。また、介護施設に入所している外国人住民の家族と施設側との間で最もトラブルになり易いのは、母国と日本との生活習慣、文化の違いによるものだそうです。

そのような中、日本の介護制度を知り、介護が必要となる外国人住民を言語、文化・習慣的な面で支援できる人材を育成することを目的として、今年度初めて「介護通訳者育成研修」を開催したところ、23人が参加されました。

第1回では、外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト(愛知県きのしたたかの木下貴雄(王榮)代表から「多文化介護通訳としての心構え」と「介護現場での介護通訳事例」について、また三重県立看護大学の太田おのの扶貴教授から「日本の公的介護制度の概要」と「介護に関わる専門職」についてお話をいただきました。

第2回には、「介護通訳者の倫理」について Medical Interpreter Network Tokai の伊藤美保さんにご講義いただきました。

第3回には、高茶屋診療所の小野亮佑医師を講師に招き、要介護者に多い病気について学びました。

また、第2回および第3回にはスペイン語、中国語、ポルトガル語のグループに分かれ介護場面別で使用される用語の確認をし、第4回の場面別ロールプレイにつなげました。

今後、外国人住民の高齢化が進み、介護を必要とする方も増加すると予想されます。県内外国人住民のニーズを把握し、介護分野の専門機関とも連携を図りながら高齢化に係る課題に取り組むよう努めます。



▲介護通訳者の倫理に関する研修の様子

四日市市日本語ボランティア研修

昨年度から、MIEF は四日市市日本語学習支援事業を受託しており、12月2日、四日市市総合会館で日本語ボランティア研修を実施しました。

今回は、大阪産業大学国際学部教授の新矢麻紀子さんをお招きし、『楽しく身につく!! 「生活の漢字」の教え方』をテーマに、講義とワークショップを行いました。

講義では、在住外国人にとって文字学習がなぜ大切か、指導のポイントなどについてお話いただきました。後半のワークショップでは、会場から出て身の回りにある漢字を見つけて写真を撮り、実際に「生活の漢字」を教えるための教材を作りました。

特にワークショップは「簡単にできる方法でとても参考になった」、「あらためて看板やポスターを見ると、大切な文字や知っておいたほうがいい言葉がたくさん見つかった」と好評でした。



▲在住外国人に必要な漢字って何だろう？

韓国高校生交流事業

10月17日から21日まで、韓国聖南高校の生徒10人と教師3人が来県し、津商業高校の生徒と交流しました。学校では、英語によるコミュニケーション授業や調理実習に参加し、茶道にもチャレンジしました。また、津商業高校生徒の自宅にホームステイし、日本の生活や文化を体験しました。研修旅行では伊勢神宮や朝熊山、鳥羽水族館を訪れ、実りの多い5日間となりました。

11月9日から14日までは、韓国養正高校の生徒7人と教師1人が昴学園高校の学生寮に滞在し、授業や学校行事に参加しました。10日は高校の文化祭「昴祭」を見学し、スポーツ交流会を楽しみました。また、奥伊勢フォレストピアで日本の温泉を味わったり、鳥羽水族館を見学したり、三重の名所も訪れました。寮生活は、日本の文化や学生生活を知る良い機会となりました。



▲枝豆の収穫を体験しました

親と子の多言語おはなし会

今年度2回目の多言語おはなし会を、鈴鹿市にあるブラジル人学校 EAS Suzuka で開催しました。幼稚園から小学2年生まで子どもたちとその保護者など、計72人が参加しました。

はじめに、「しあわせなら手をたたこう」を歌いながら、手をたたいたり、足をならしたりしました。次に、MIEF が制作した多言語紙芝居「だんだらぼっち」をスクリーンにうつし、日本語とポルトガル語で読み聞かせしました。日本語は EAS の本間先生、ポルトガル語は同じくアドリエリ先生が、感情豊かに生き生きと語ってくださり、子どもたちはみんな真剣に聞き入っていました。

お話についてのクイズをしたあと、大きな紙で帽子を折って、思い思いのだんだらぼっちを描きました。最後に、帽子をかぶりながらポルトガル語版「しあわせなら手をたたこう」の音楽に合わせてみんなで踊り、とても盛り上がりました。

EAS の先生から「物語は読書への興味や喜びを芽生えさせ、日本の文化を知る機会になった。子どもたちは想像力を使って遊び、学ぶことができた。今後も実施してほしい」と、感謝の言葉をいただきました。

MIEF では、今後もこのような多言語による読み聞かせ活動を県内で広めていきたいと考えています。また、多言語紙芝居「だんだらぼっち」を外国につながる子どもたちに関わる団体に無償で提供しております。

多言語おはなし会を開催したいと考えている、もし

くは紙芝居をご希望の団体様は、ぜひ MIEF までお問い合わせください。



◀だんだらぼっちの帽子、似合うかな？

トピックス

長年にわたるご寄附に感謝申し上げます。

三重県教職員組合様からは、長年にわたりご寄附をいただいておりますが、今年度も多額のご寄附のお申し出をいただきました。改めて、心より感謝申し上げます。

この貴重な浄財により、次世代を担う子どもたちのために「多文化共生教育」事業を実施しております。学校関係者の皆さまをはじめ、外国につながる子どもたちを支援されている方々にも役立てていただけるよう、研修会の開催、日本語教材や指導教材の作製・発行などを行っております。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

ようこそ MIEF の輪

皆様からの温かいご支援ありがとうございます。
(平成30年10月1日～1月31日ご入金分。順不同・敬称略)

団体会員様：伊勢市国際交流協会、三重県日韓親善協会、国際ソロプチミスト三重、志摩市国際交流協会、千巻印刷産業株式会社

個人会員様：小倉康彦、岩並正見、太田治希、真伏利典、小塚俊郎、庄野あい子、稲葉嘉久、辻真由実ロザリーナ、長谷マルシア、保々令之輔、安田正、稲垣文代、徐榕梅、内田愛、鈴木志づほ、生川哲也、村田雅代

パートナー会員様：山本はるみ、吉村真理子、王平、陳艶、中田真紀子、伊藤麻美子、豊田一洋、杉本行也、高野谷久、濱畑静香、川浪えりか、鬼頭さやか、窪田紀子、田中レオニセ、白戸まさみ、倉田麻里、平野睦子、ボンセテレオンサラ、川瀬照代

DVD「日本語指導の基礎」が 凡人社のウェブサイトで購入できます！

日本語ボランティア研修等で大人気の船見和秀先生が講師として出演している DVD「日本語指導の基礎」が、日本語教材専門書店の凡人社ウェブサイト (<http://bonjinsha.com/>) から購入できるようになりました。はじめて外国人児童生徒に日本語を教える方向けに、日本語指導の基礎的知識についての講義と、教科指導と結び付けたわかりやすく丁寧な模擬授業が収録された必携の1枚です。詳細については下記をご覧ください。

< MIEF 発行教材一覧 >

http://www.mief.or.jp/jp/mief_kyozai.html

伊勢市国際交流フェスティバルにお越しく下さい！

クイズやワークショップに参加して、国際交流や多文化共生を楽しく学んでみませんか？スタンプラリーで外国の料理も味わえます！ MIEF も「世界のあいさつクイズ」と「ペルー文化」を紹介します。ぜひお越しく下さい。

と き：2019年3月3日（日）10：00～16：00

と ころ：伊勢市ハートプラザみその（伊勢市御園町長屋 2767）

ひろがれ MIEF の輪

三重県では、県内出身で海外に留学している方や三重県内の大学で勉強されている外国人留学生に、奨学金を支給しています。今回はその奨学生の中から、皇學館大学に留学中のリ コウさん（中国出身）に留学生活について教えていただきました。



皇學館大学
文学部 コミュニケーション学科

リ コウさん

日本での留学生活は二年目になりました。振り返ってみると、私にとって、この一年間は毎日がかけがえない貴重な思い出になりました。

最初のころ、日本人大学生と一緒に授業を受けたので、すごく大変でした。幸い、先生と先輩と同級生から色々教わったりして、学校生活に慣れることができました。そのうち、日本語も上達してきました。この一年間の経験によって、日本と中国の相違点について幅広く知ることができるようになりました。おかげさまで、私の卒業研究は、日本と中国の比較文化研究に取り込むことにしました。

ほかに、学校の授業以外、玉城町の花見イベント、宮川の花火大会、三重県総合博物館への見学、神宮でのフィールドワークなど、すべてが私の留学生活に多彩な色を添えました。留学を通じて日本の文化、伝統を体験することは、一番大切なことだと思っています。最初に挨拶すらできなかった私でしたが、今はだんだん日本の礼儀やマナーを心掛けるようになりました。それに、日本人大学生の友達もできて、よく一緒に市内の観光地に行ったり、遊んだりしていました。三重県は日本の伝統的な雰囲気を持っていて、非常に魅力的なところだと思います。生活リズムの速い大都市と比べて、ここはまさに居心地の良いところに違いないと思います。

異文化を体験し、理解できることは何よりだと思っています。残り一年間も頑張って、更なる素晴らしい一年にしたいと考えています。



▲玉城町の花見イベントでの様子

開館案内 開館：月～金 9：00～17：00 / 閉館：土・日・祝日・年末年始

発行 (公財)三重県国際交流財団 (MIEF)

〒514-0009 三重県津市羽所町 700 番地 アスト津 3 階 TEL 059-223-5006 FAX 059-223-5007

ホームページアドレス：<http://www.mief.or.jp/> Eメールアドレス：mief@mief.or.jp

Facebook：公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF) Twitter：@MIEFsince1991

